

特集 民生委員児童委員活動とICT

インフォメーション

- 「令和2年度 事業報告」…………… 5
- 「道民児連の新役員等体制」…………… 7
- 「春の褒章・叙勲」…………… 7
- おすすめ書籍「ブックレビュー」…………… 8
- エッセイ:ひとをつなぐ
「福祉をつなぐ人となる」…………… 8



民生委員児童委員活動とICT

日々、目覚ましい進化を続けるデジタル技術。通信デバイスは、ほんのひと昔前とは比べものにならないくらい多様化し、それと共に使い手の向き合い方も変化を余儀なくされています。一方で、新型コロナウイルス感染症の爆発的流行は、人間にとって最も普遍的なコミュニケーション手段であった「顔を合わせて話し合う」ことを困難にしていまいきました。ハードルが高いと二の足を踏みがちなデジタルICT。でも、こんな時代だからこそ、その優位性を考えてみませんか。



◀南樽地区民児協が定例会を行う新栄町会会館。LINE活用前は唯一の情報共有の場だった。

望来地区から望む石狩市北方海岸線数十キロにわたり、集落が続く

■ICTとは

ICTはinformation and communication technologyの略称で、情報通信技術のことです。2000年代前半まではIT（information technology）がほぼ同意で使用されてきましたが、国際的にはICTが広く使われており、これにならって近年は日本でもICTが用いられるようになってきました。そもそもICTは広範な意味を含む言葉であり、サーバー、インターネットなどの技術やデバイス（端末機器）を指すばかりではなく、

たとえばSNSやブログ、口コミサイトなどインターネットを介した情報発信や情報交換を可能にする、いわゆるソーシャルメディアなどのサービスやビジネスについても、その範疇に含めた概念です。ICTとITに明確な線引きがあるわけはありませんが、両者の使われ方を比較すると、ITはコンピュータ関連の技術に力点を置き、ベンチャー企業が展開するサービスなどに用いられることが多いようですが、ICTはコンピュータ技術の活用面において用いられる傾向が高いようです。もう少しICTを理解しやすい題材を提示しましょう。それは、

■どう使うICT

私たちが国から登録を求められているマイナンバーカードです。これは個人に振られたID（マイナンバー）を糸口に、さまざまな個人情報を中心省庁と結びつけるものですが、これも代表的なICTのひとつです。また、近年はスマートフォンを用いて、外出先から家電を操作する技術も普及してきました。こうしたシステムもまた、ICTによって支えられています。



LINEの積極運用を進める佐々木則子・南樽地区民児協会長

T。これを活用すれば、これまでとは比べ物にならないくらい便利で迅速な情報共有が可能になります。昨年始まった新型コロナウイルスの大流行前に、ICT導入に踏み切った民児協があります。小樽市民児協を擁する組織。中でも比較的に広範な地域を担当する南樽地区民児協会長の佐々木則子氏は、令

和元年の暮れからICT導入について協議を開始し、ほどなく通信対話アプリ「LINE」の活用を開始しました。

この時を振り返り、佐々木会長は次のように話します。「きっかけは胆振東部地震でした。全道を襲った大停電により、当時の民児協の主要な連絡手段であった固定電話がまったく使えなくなりまして。有事にはことさらに綿密な連絡が必要な民生児童委員の相互連絡が不可能になったのです。このことに直面して、何か早急な手を打たねばと考えました」。

協議は定例会で動議され、間もなく実践が始まりました。「まず

はLINEグループの整備を急ぎました。どうしてもLINEが使えない環境の委員もいたので、そうした5名だけは当面の間FAXを用いることにしました。導入当初はアプリ操作に不安を訴える委員もいましたが、ほどなく慣れたようで大ことなく活用が続いています。

南樽地区民児協がLINEで共有するのは、①正副会長通達を中心とした、通常の伝達事項②研修参加等の報告③行事案内と報告④個別相談、の4事項です。このうち④は、多くが要支援者の個人情報を含むため、担当委員と会長・副会長での情報共有に限定し、全委員が同時共有するのは①②③だそう。

「コロナ禍においては、顔を合わせての伝達が憚られることもありましたし、例会も3度ほど中止にしました。こうした時に、通常活動を絶やさないために必要な最低限の意思決定を会長・副会長で行い、タイムラグなく各委員に情報伝達できることは大変な利点」と、佐々木会長は語ります。

LINEを用いた情報共有では、副次的な効果ももたらされたと言います。それは、例会の予習・復

習がしやすくなったこと。

従来の伝達は電話やFAXによる紙媒体で行われていました。紙媒体は実体として手元に残る一方で、一度しまい込むとすぐに手にとって内容を再確認しにくいことが否定できません。よほど几帳面に整理したとしても、忙しい最中にそれを探し出すのが億劫だったり、出先では不可能だったりします。ところが、LINEを利用することはスマートフォンの中に情報を蓄積することなので、疑問に思ったことは手元の操作ですぐに確認できます。

「現在は主として情報のトップダウン型伝達にとどまりがちな利活用ですが、ICTの利便性を理解すると、もっと発展的な利用ができるはずだと期待しています。」佐々木会長の言葉からは、新しい技術やデバイスを積極的に導入し、民児協活動のスピードアップにつなげたい意志が伝わってきます。

■統合Microsoftツールの活用

スマートフォンの普及を味方にかけて進めた南樽民児協のICTへのアプローチ。同市とほど近い石狩市の民児協では、また違った

新しい手法を導入しています。米・マイクロソフト社が開発し、世界にリリースした「Microsoft Teams」を用いた、遠隔会議の実践です。

Teamsは、マイクロソフト社が推奨する統合プラットフォーム「Microsoft 365」に含まれたコミュニケーションツールで、チャット・通話機能の他、ビデオ会議機能、ファイル共有機能、Officeアプリとの連携機能があり、Microsoftアカウントがあれば無料での利用も可能です。コロナ禍で推進が求められたリモートワークはもちろん、教育現場におけるオンライン授業の現場でも、急速に普及してきました。

Teamsを導入する最も大きなメリットとして、Word、Excel、Powerpointといった、ビジネスはもちろん私たちの暮らしにおいても大定番のOfficeアプリとの連携が可能なことと挙げられます。Teams上では、これらOfficeアプリで作成したファイルの閲覧だけでなく共同編集も可能になります。

さらに有料プランでは、電話とコミュニケーションも可能です

から、インターネット環境がなくても、通話可能圏内であれば電話で会議に参加することができます。石狩市民児協がこのシステムの導入を始めたのは、昨年の1月。やはり新型コロナウイルスの大流行が始まる以前のことです。はからずも発生した病禍への対応も、このシステムの運用が役立つと考

えられます。ですが導入の背景に見えるのは、コロナ禍とは違った課題に対する解消のアプローチでした。これについて、民児協の事務局を担う石狩市社会福祉協議会地域福祉課の久保田貴浩課長は、次のように説明してくれました。

「石狩市は平成17年の町村合併により、北方に隣接する厚田村および浜益村が編入されました。南側は札幌市、北側は留萌振興局の増毛町と隣接する長い海岸線を有することになったのです。また、新十津川町と接する東側は、増毛山地の深い山が聳えています。海沿いにも山間にも点在する集落間は、特に北西の季節風が日本海から直接吹きつける冬季は、荒天によつて移動自体が不可能な日が続くことも稀ではありません。」

たとえば民児協事務局のある市中心部と浜益地区は、平時でも往

復に車で3時間を要するといえます。少しでも路面コンディションが悪化しようものなら、地区の民生児童委員が中心部での会合に出席することに、大きな負担とリスクがつきまとうことは想像に難くありません。特有の地勢からくる課題は、早急に解消が望まれる悲願であったのです。

そこで、事務局を担う社協は、リモートによる月例会議の開催から改善に着手しました。先に述べた利便性と拡張機能の豊かさ、それからセキュリティをはじめとするネットワーク管理の視点から、現状で最も信頼性の高いTeamsの導入を決めると、実際の運用に向けた準備を進めました。

「Teamsを導入するためには、安定したインターネット環境を確保するのは勿論、スマートフォンかパソコンといったデバイスを揃えることが必須です。地区毎に分散して会議を行う場合、各



石狩市社協で民児協のICT支援にあたる久保田貴浩課長



地区会館の一室に参加者が集まり、広角系のウェブカメラでそこにいるみんなの様子がまとめて見られる方が、臨場感が高いと考えました。そこで、各地区1台ずつノートパソコンとウェブカメラ、ポケットWiFiを用意し、社協職員を操作要員として同席することにしました。

■利便性とリスク

機器をはじめとする物的資源にとどまらず、同席職員に至るまで多くのリソースを社協が供給して推し進めた会議のリモート化。現在は主に、市域に6つある民児協の正副会長会議を中心に運用しているそう。中心市街地に近い5つの民児協の正副会長には、事務局が入る総合保健福祉センター「りんくる」の会議室に、厚田・浜益地区の民児協は地区会館に、感染予防のパーティションを設置した上で集まってもらい、Teamsを介した議論を行っています。

「デジタル技術を用いる以上、何らかのトラブルは発生します。

特に通信環境による映像や音声の遅延は、最初のうちかなり発生しました。そうしたトラブルへの対処は社協職員が行い、正副会長には協議そのものに集中してもらうことが重要で。久保田課長はそう語り、続けてそれを実践する意義について話してくれました。「遠隔地を抱える以上、民生児童委員の活動につきまとうリスクを低減するのは、私たち事務局の責務です。それにリスク回避と情報ツールの上手な活用について考えるためには、事務局員一人ひとりがリテラシーを高める必要があります。何が使えて、何は避けるべきか。予算をはじめ、その時々で限られた条件ではあるけれども、できるだけ安全な環境で民生児童委員に活躍してもらおうことを最優先事項としています」。

実は、石狩市社協のセットアップで、民児協を含む福祉関係者が利用しているソー

シャルメディアが、もうひとつあります。ドリームエリア株式会社運営する「マチコミ」。「子供が安心して暮らせる街づくり」をコンセプト



▲コロナ禍における民児協活動に向けて石狩市社協がまとめた訪問マニュアル

に、無料のメールングリスト（一斉メール送信）や不審者情報配信ツールなども備えたプラットフォームです。当初は子どもを持つ親やPTAなど学校関係者向けのサービスでしたが、やがて地域福祉にかかわる様々な団体に登録範囲が拡大。今日では自治体や警察署の登録も増加しています。「インターネット上にたくさんある無償サービスは一見すると便利ですが、危険と隣り合わせのものも少なくありません。私たちが扱うのは地域の人々の暮らしに関わることで、できるだけ素性が明確で、リスク管理が徹底されたものを選ぶ必要があります。マチコミはそうした点で信頼されると判断しました」と久保田課長。普段は子どもに関わる情報の他に、徘徊老人の探索情報共有などに利用しているほか、コロナ

感染症の拡大に伴う民児協総会の緊急中止の一斉連絡にも利用したそうです。

■リテラシー 「便利なツールをどう使う」

今年の春先、衝撃的なニュースが伝えられました。個人間にとどまらず、今や企業や公共団体の手軽な情報共有ツールとしてすっかり定着したLINE。ここに登録された個人情報や通信情報が実は、韓国のサーバーに保存されていて、さらに中国の関連会社を利用者の個人情報にアクセスしていたことが分かったのです。

抜き取られるものだったそうです。LINEはもともと日本企業によつて開発されました。ところがこれら2つの漏洩事件を通じて「日本のアプリは安全」という「神話」が完全に崩壊しました。これらのことは、私たちに大きな教訓を提示しています。それは、適切な使い方とはどういうことかを、もう一度考えるべきということです。手軽さ、便利さはICTの大きな魅力です。でも、リスクゼロのサービスは、残念ながらデジタル社会においては存在しません。扱う情報の内容によって、何を利用するのが適切か、あるいはトラブルが発生しても致命傷を負わずにすむ運用とは何かを、しっかりと考えるべきです。もちろん、リスクを恐れて首をすくめるだけでは、急速に変化する社会の流れに追従できなくなり、私たちの未来のコミュニケーション手法が過去とは違わたりになる可能性があります。要となるのは、どう読み解き、どう取り入れるか、つまりリテラシーです。積極的なICT運用には、想定される危険を理解して、上手に運用することが求められるのです。

令和2年度事業報告

公1 民生委員児童委員の資質向上のための研修事業

ア 研修 研究協議事業

- (ア) 全道民児協会長 副会長研究協議会開催事業
新型コロナウイルス感染症拡大により中止
- (イ) 全道児童委員活動研究会開催事業
令和2年8月19日(水)13時～17時45分
旭川市・旭川市民文化会館 3339名
- (ウ) 中堅民生委員児童委員教室開催事業
新型コロナウイルス感染症拡大により中止
- (エ) 民生委員児童委員活動推進講座開催事業
札幌会場 8月25日(火) 109名
北海道自治労会館
- 旭川会場 8月26日(水) 295名
旭川市公会堂
- 函館会場 8月28日(金) 101名
函館市民会館

イ 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業

- (ア) 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業
講師等派遣12件、視聴覚教材活動資料貸出5件
- (イ) 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業
講師等派遣

ウ 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業

- (ア) 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業
講師等派遣
- (イ) 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業
講師等派遣

エ 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業

- (ア) 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業
講師等派遣
- (イ) 民生委員児童委員(民児協)活動支援事業
講師等派遣

公2 道民への普及啓発事業及び調査研究事業

ア 民生委員児童委員に関する調査研究事業

- (ア) 民生委員児童委員に関する調査研究事業
第6次地域支援調査
- (イ) 民生委員児童委員に関する調査研究事業
第6次地域支援調査

イ 一般道民への普及啓発事業

- (ア) ホームページ開設事業
- (イ) 民生委員・児童委員の日(5月12日)・済世顧問制度の創設日(ならびに)民生委員児童委員活動強化週間事業(5月12日から5月18日まで)、「民生委員児童委員活動資料の作成・配付事業」(印刷用原稿)の配布

ウ 市町村民児協活性化事業

- (ア) 市町村民児協活性化事業
モデル指定民児協への助成
- (イ) 令和2年度一般事業指定地区(3か所)旭川市東光地区民児協、旭川市神居東地区民児協、浜別別町民児協

エ 他1 民生委員児童委員の互助共済及び福利厚生等事業

- (ア) 民生委員児童委員互助共済及び福利厚生等事業
第1回指定民児協選考委員会 令和2年6月11日(水) ホテルポルスタール札幌

オ 調査方法・項目

局に郵送し回収

- 調査項目 所属区域の概況、所属委員の構成および弁償費、法定民児協組織、民児協運営、連絡手段および情報の取り扱い、研修および人材育成、活動や関係機関との連携、おまじり活動指針への取り組み
- ① 新型コロナウイルスと民生委員活動に関する調査
- ② 調査対象 4276か所
- ③ 調査時点 令和2年2月1日～4月30日
- ④ 調査方法 調査票を市町村民児協事務局に郵送し回収
- ⑤ 調査項目 定例会・訪問活動・相談支援活動・その他活動の実施状況、新任委員へのフォロー体制、地域が抱える新たな課題
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症に対する意識と活動に関する調査
- ⑦ 調査対象 令和2年度民生委員児童委員専門研修参加の民生委員児童委員、主任児童委員
- ⑧ 調査方法 アンケートを配布し回答を得た後回収
- ⑨ 調査期間 令和2年9月4日～10月8日
- ⑩ 調査項目 感染症予防対策の状況、各種活動に対する不安、コロナ禍の活動課題

会等基本調査報告書(ダイジェスト版) 11,000部

- 民生委員児童委員のための住民支え合いマップづくり入門改訂版 10,500部
- 民生委員児童委員研修企画のてびき800部
- 民生委員児童委員研修企画のてびき分冊ワークシートのすすめ 800部
- 道民児連地区・支部・町村民生委員児童委員協議会名簿 700部
- 関係機関・団体等との普及啓発事業(各関係機関・団体等の理事、評議員、委員への就任協力)
- 関係機関・団体に対する啓発と連携
- 全国民生委員児童委員連合会事業の協力及び東北県・指定都市民児協との連携
- 令和2年度第89回全国民生委員児童委員大会 令和2年10月22日(水) 神奈川県横浜市 3名参加
- 令和2年度民生委員・児童委員リーダー1研修会 令和2年12月15日(火)～令和3年3月10日(水) 講義動画 11民児協研修実施
- 令和2年度全国民生委員活動研修会 令和3年1月22日(金)～3月10日(水) 講義動画 1地区・16民児協研修実施
- 全民児連作成民生委員児童委員活動に関する資料の配布協力
- 北海道社会福祉協議会との連携
- 北海道社会福祉協議会理事会への参画(佐川会長)
- 北海道社会福祉協議会評議員会への参画(梅田副会長、船橋副会長、宮下副会長)
- 生活福祉資金貸付審査等運営委員会(梅田副会長)
- 民生委員児童委員部会総会への参画

北海道民協、安平町民児協、むかわ町民児協 助成総額 937,295円

- 災害に備える民生委員児童委員ハンドブック(北海道版)の普及啓発
- 民生委員児童委員研修のあり方に関する検討
- 民生委員児童委員研修のあり方に関する検討委員会の開催
- 民生委員児童委員研修のあり方に関する検討委員会
 - 第1回検討委員会 令和2年8月12日(水) ホテルポルスタール札幌
 - 第2回検討委員会 令和2年9月24日(水) ホテルポルスタール札幌
 - 第3回検討委員会 令和2年11月16日(水) ホテルポルスタール札幌
 - 第4回検討委員会 令和2年12月2日(水) 発行 12月21日(水) 承認書面審議
 - 第5回検討委員会 令和3年3月15日(月) ホテルポルスタール札幌
- 新北海道民生委員児童委員活動スタイル作成に係る答申
- 民生委員児童委員研修のあり方に関する検討委員会答申
- 人材育成の効果も期待できる取り組みに関するヒアリング
 - 士別市民生委員・児童委員協議会 令和2年10月26日(月)
 - 当麻町民生委員児童委員協議会 令和2年10月26日(月)
 - 富良野市民生委員児童委員協議会 令和2年10月27日(火)
 - 初任民生委員児童委員研修の開催 函館市民生委員児童委員連合会 令和3年3月24日(水) 函館市民会館 23名
 - 民生委員児童委員研修企画のてびきの発行
 - 民生委員児童委員研修企画のてびき 1冊
 - 民生委員児童委員研修企画のてびき分冊版「ワークシートのすすめ」

他1 民生委員児童委員の互助共済及び福利厚生等事業

道民児連の

新役員

等体制

令和3年5月18日に決議された第1回評議員会ならびに令和3年5月26日に決議された第2回理事会において、任期満了にともなう役員等の選任決議をした新役員等体制をお知らせします。

理事

任期／令和4年事業年度の最終の定時評議員会終結時まで

会長 佐川徹（旭川市）

副会長 梅田絹子（岩見沢市）、船橋優子（函館市）、宮下利明（根室市）

常務理事 菖蒲信也（道民児連事務局長）

理事 岸田勤（石狩地区）、呉敏弘（渡島地区）、馬渕一（オホーツカ地区）、関原久（釧路市）、松村順子（苫小牧市）、中村幸尚（名寄市）、佐々木正美（三笠市）、松田尚美（富良野市）

監事

任期／令和6年事業年度の最終の定時評議員会終結時まで

山田好弘、森田信子（新任）

評議員

任期／令和6年事業年度の最終の定時評議員会終結時まで

中村力（胆振地区）、野中榮修（日高地区）、大西笑子（宗谷地区）、樋口正寛（十勝地区）、岡田栄敏（北見市）、多喜芳勝（夕張市）、池田昭良（稚内市）、山川宏治（紋別市）、植西信雄（士別市）、須貝亨（千歳市）、菊地裕子（伊達市）、田中幸憲（北斗市）

顧問

赤石欽司、土方源太、野坂和弘、本田晴子

会長就任メッセージ

北海道民生委員児童委員連盟

会長 佐川 徹



この度の役員改選に伴い、再度会長
の任を仰せつかりましたことに、その
責任の重さを感じ、改めて身の引き
締まる思いでございます。

さて、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、民生委員児童委員活動を取り巻く環境が大きく変化しております。コロナ禍の中、従来の訪問活動ができなくなり、委員同士の情報共有や新任委員へのフォローなども難しくなっております。そのような状況にあつては、地域の課題が潜在化してしまつことも懸念されるところですが、民児協や委員一人ひとりが、各地域の状況を踏まえ様々な工夫を凝らしながら活動を行つていただいていることに敬意と感謝を申しあげます。また、令和4年12月には一斉改選を迎えますが、委員のなり手不足は喫緊の課題として、重要なことは新任委員の発掘は元より、現任委員にできるだけ長く委員を継続していただくための委員同士が支え合える環境づくりであると考えています。私は、民生委員児童委員が明るく、楽しく、元氣よく活動すること、元氣な社会を取り戻すことができると信じています。ひとつの点は小さいですが、その小さい点も数が集まれば線となり、面になります。民生委員児童委員一人の力は小さいかもしれませんが、全道約一万人の力の紡ぎながら、それぞれの地域を、そして北海道の福祉を盛り立ててまいります。

「明るく、楽しく、元氣よく」をモットーに道民児連の事業活動に尽力いたしますので、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

受章おめでとう

「令和3年春の褒章・叙勲」

令和3年度、春の褒章・叙勲で、受章された民生委員児童委員の方々をご紹介します。（敬称略）

●春の褒章・叙勲受章者

褒章受章者

◇藍綬褒章

- 観野 公則（網走市 現）
- 小林 英二（芦別市 現）
- 鈴木 法子（釧路町 現）
- 西川 明子（函館市 現）
- 前川 洋子（上川町 現）

叙勲受章者

- ◇旭日双光章
- 岡崎 治夫（士別市 現）
- 川淵 健一（日高町 元）
- 菊地 進（斜里町 元）

◇瑞宝双光章

- 川原 毅彦（帯広市 現）
- 津田 裕三（小樽市 現）
- 森 國昭（苫小牧市 現）
- 八巻 政博（音更町 現）
- 尾形 照利（美幌町 現）
- 岡 政義（美瑛市 元）
- 古海フジノ（松前町 元）
- 千田 重光（壮瞥町 元）
- 富士川 伝教（芦別市 元）
- 湯浅 民子（生田原町 元）
- ◇瑞宝単光章
- 林 秀明（赤井川村 現）
- 和田 一志（小樽市 現）
- 千葉 昌希（上砂川町 元）
- 長谷部 静好（日高町 元）

スマホ脳



アンデシュ・ハンセン
久山葉子 訳
新潮社
1,078円(税込)

■ 内容

○ 私たちは1日平均2600回スマホに触り、10分に1回手に取っている。

○ スマホのアプリは、最新の脳科学研究に基づき、脳に快楽物質を放出する「報酬系」の仕組みを利用して開発されている。

○ 10代の若者の2割は、スマホに1日7時間を費やしている。

○ 1日2時間を超えるスクリーンタイムはうつ病のリスクを高める。

衝撃的な指摘の数々は、精神科医である著者から世界中の人々に放たれた警告です。ノーベル賞選定で知られる名門カロリンスカ医科大学を卒業後、ストックホルム商科大学にて経営学修士(MBA)を取得した著者は、最新の脳科学と社会学の両輪でエビデンスを提示しています。「スマホは最新のドラッグ(麻薬)だ。使ったことがなければ必要ない

し欲しいとも思わないが、使うと手離せなくなり、気づかないうちに依存症になっている」。文中でそう語る著者はしかし、スマホの技術と文化を全否定することもありません。

それは、すでに人類が歩み始めたデジタル化の波を止めることはできないという、実に合理的かつ科学的な諦念にあります。その上で著者は、デジタル社会における精神の処方箋も提示するのです。

2016年10月、世界保健機関(WHO)が「国際疾病分類第11版」に新たに「ゲーム障害」という疾病を追加しました。オンラインを始めとするデジタルゲームに依存傾向が強い人は、前頭葉が異常活性を繰り返し、やがて委縮や不可逆的変形が認められるようになるというもの。日本ではほとんど報じられなかったこのニュースを、戦慄と共に思い出させて一冊。

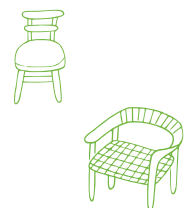
エッセイ



ひときつなぐ

④ 福祉をつなぐ人となる

鳥居 一頼



心に ゆとりなどありません
ひと 他人事で いっぱいです

知人に頼まれて 引き受けました

時間に 余裕などありません

動いた分だけ 始末に追われます

なかなか慣れず 負担をおかけしています

やればやるほど 空回りしています

このまま続けられるのか 迷っています

根が真面目なので 悩みが尽きません

ふと目にした詩に 心を突き動かされました

一編の詩が 心をときほぐしていきま

みんなも 同じように苦しんできたんだと

そう感じた瞬間
納得と共感が生まれていました

一遍の詩で 心にスイッチが入りました

活動の先にある 小さな仕合わせづくりが

いまここで為すべきことだと 救われました

「次代に福祉をつなぐ人となる」

求めていた人生の指針を 見つけました

民生委員児童委員として

世の中に関わることが

「わたし自身を生きる」ことだと

胸に納めました

明日から気持ちを切り替えて

いい笑顔で訪問します

【筆者紹介】

鳥居 一頼氏(とりのい かずより) 登別市出身。71歳。北海道教育大卒。道内で18年間教壇に立つ。道教委、道庁などに勤務後、室蘭・登別で小学校校長歴任。その後関西の私立大学の教授。現在、登別市きずな大使として地域福祉実践計画推進を支援する傍ら、各地で地域福祉アドバイザーとしても活動している。また、道民児連が設置した「民生委員児童協議会のあり方に関する検討委員会」の委員長をお務めいただいている。主な著書に「子どもと学ぶボランティア〜こっちゃんのボランティア授業論(大阪ボランティア協会刊)・「福祉教育のキーワードと指導のポイント」(大阪ボランティア協会)・「子ども・共育・ボランティア」(長崎県ボランティア協会など)。